

慢性腎炎，慢性腎不全の疫学にかんする研究

—まとめ—

伊藤 拓

都立清瀬小児病院小児科

腎尿路系疾患の最も大きな問題は将来の腎不全への進行であり、多数の症例の中からこのような予後不良例を早い時期に選別し、適切な治療により腎不全への進行を阻止することにある。そのためには、末期腎不全例の retrospective study から、どのような疾患が、どのような病理組織所見が、どのような臨床経過を示す例が予後不良であるかを知る事が極めて重要なことである。

しかし一方では、腎疾患の発症機転、病態がなお十分に解明されていない現在、このような努力によっても尚、全ての患児を治癒せしめることは困難である。従って、不幸にして治療に反応せず腎不全に進行した患児に対しては、末期腎不全への進行を遅延せしめる努力が必要であろう。

更に、末期腎不全に至った場合には透析、移植治療により出来るだけ多くの患児を完全社会復帰させることが目標となる。

当研究班はこのような目的の下に小児腎不全の研究を進めて来ており、今年度の成果について概要を報告する。

班員施設の小児腎不全患児 300 例の集計から原疾患、発症年齢、臨床経過、予後について検討した。更に個別研究として社会保険中京病院により愛知県下での小児慢性腎不全実態調査が施行された。これらの検討より、原疾患として糸球体腎炎の頻度が高いこと、約半数が学校検尿等で偶然の機会に発見される事などの我が国の特殊性が明かされた。

更に、腎不全の進行速度は原疾患により一定の傾向があること、腎不全に伴う発育遅延も原

疾患により異なり、乳幼児期に発症した腎尿路奇形に最も著明であることが確認された。発育障害は透析治療によっても改善されず、都立清瀬小児病院の報告では腎移植後も尚十分な改善が得られておらず、大きな問題である。又、新潟県吉田病院からの急性腎不全の報告では 16% の死亡例に加え、19% が慢性腎不全に進行しており、腎不全を予防するために原疾患の積極的治療が必要であると考えられる。

慢性腎不全の進行を遅延させる為に低蛋白食療法が有効なことが報告されているが、東京女子医大より、腎摘+実験腎炎ラットに対する食事療法の検討から低蛋白食療法はネフロン数の減少が考えられる進行性腎疾患においても重要な意義を持つ可能性が指摘された。本研究班に於いても小児腎不全における食事療法の確立のための project study を進めており、上述の retrospective study から得られたデータによりその効果を比較検討出来ると考えている。

その他に、末期腎不全に至った患児の治療に関して、北里大学より CAPD の腹膜炎合併についての検討結果が報告された。CAPD に関する研究は、腎移植後の発育についての検討と共に、末期腎不全患児の社会復帰をより良いものにするための重要な検討課題であり、更に継続した研究を期待したい。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



慢性腎炎,慢性腎不全の疫学にかんする研究

- まとめ -

伊藤 拓 都立清瀬小児病院小児科

腎尿路系疾患の最も大きな問題は将来の腎不全への進行であり、多数の症例の中からこのような予後不良例を早い時期に選別し、適切な治療により腎不全への進行を阻止することにある。そのためには、末期腎不全例の retrospective study から、どのような疾患が、どのような病理組織所見が、どのような臨床経過を示す例が予後不良であるかを知る事が極めて重要なことである。

しかし一方では、腎疾患の発症機転、病態がなお十分に解明されていない現在、このような努力によっても尚、全ての患児を治癒せしめることは困難である。従って、不幸にして治療に反応せず腎不全に進行した患児に対しては、末期腎不全への進行を遅延せしめる努力が必要であろう。更に、末期腎不全に至った場合には透析、移植治療により出来るだけ多くの患児を完全社会復帰させることが目標となる。

当研究班はこのような目的の下に小児腎不全の研究を進めて来ており、今年度の成果について概要を報告する。

班員施設の小児腎不全患児 300 例の集計から原疾患、発症年令、臨床経過、予後について検討した。更に個別研究として社会保険中京病院により愛知県下での小児期慢性腎不全実態調査が施行された。これらの検討より、原疾患として糸球体腎炎の頻度が高いこと、約半数が学校検尿等で偶然の機会に発見される事などの我が国の特殊性が明かとされた。

更に、腎不全の進行速度は原疾患により一定の傾向があること、腎不全に伴う発育遅延も原疾患により異なり、乳幼児期に発症した腎尿路奇形に最も著明であることが確認された。発育障害は透析治療によっても改善されず、都立清瀬小児病院の報告では腎移植後も尚十分な改善が得られておらず、大きな問題である。又、新潟県吉田病院からの急性腎不全の報告では 16%の死亡例に加え、19%が慢性腎不全に進行しており、腎不全を予防するために原疾患の積極的治療が必要であると考えられる。

慢性腎不全の進行を遅延させる為に低蛋白食療法が有効なことが報告されているが、東京女子医大より、腎摘+実験腎炎ラットに対する食事療法の検討から低蛋白食療法はネフロン数の減少が考えられる進行性腎疾患においても重要な意義を持つ可能性が指摘された。本研究班に於いても小児腎不全における食事療法の確立のための project study を進めており、上述の retrospective study から得られたデータによりその効果を比較検討出来ると考えている。

その他に、末期腎不全に至った患児の治療に関して、北里大学より CAPD の腹膜炎合併についての検討結果が報告された。CAPD に関する研究は、腎移植後の発育についての検討と共に、末期腎不全患児の社会復帰をより良いものにするための重要な検討課題であり、更に継続した研究を期待したい。